

第2回市民自治推進委員会 防災・環境部会会議録

- ◆開催日時：平成28年5月23日（月） 18：00～
- ◆開催場所：登別市役所2階 第1委員会室
- ◆出席部会員：部会長 江口 武利
副部会長 川島 芳治
部会員 久保田 博史
丸 博子
関 修
遠藤 潤
澤田 時人（協働推進庁内委員会）【総務部次長】
千葉 浩樹（協働推進庁内委員会）
【総務部総務G総括主幹】
- ◆欠席部会員：部会員 和泉 薫
- ◆事務局： 松田 毅【市民生活部次長】
笠井 康之【市民生活部市民協働グループ総括主幹】
有馬 亮太【市民生活部市民協働グループ主任】

- ◆議 題：「健康」に関する取り組みについて

《事務局》

4月25日に全体会議をし、市民自治推進委員会の方向性が決まりました。

各部会がバラバラな動きをするのではなく、一つの柱を設けて進めていくという考え方が示され、各部会で共通して議論できるものとして『健康』を柱にするということで委員の皆さんの同意を得ました。

健康といいますのは、体の健康だけではなく、心の健康、精神的な意味での健康も含まれており、市民の身体的及び心が健康でなければまちづくりを進めていけないというような考え方に基づいているものであります。現在の少子化や高齢化、経済の問題もこの健康が基本になるのではないかという考えです。

今日の部会については、健康についてどのようなことができるのかを皆さんに自由に語っていただき、その中で防災・環境部会として取り組んでいけるような方向性を見出していただければと思っております。

また、お手元に配付した資料ですが、登別市総合計画第3期基本計画の第2章にある事業を抜粋し一覧にしていますので、健康に関連付けて何かできる部分や気になることがありましたら、お渡ししてあるFAX用紙に記入し送信してください。

今回部会をあと2・3回開催し、そのあとに部会長副部会長会議を開催し、それぞれの部会で健康をテーマにどの程度進んでいるのかを情報共有し、また進めていければ良いなと思っております。

市の事業に反映できる部分があれば、秋くらいには形になってないといけないとは思っております。

《部会長》

健康と防災関係は結びつかない部分があると思うが、防災については、災害があつて避難するときには、足腰がしっかりしていないといけない。

防災と健康を組み合わせるためには、避難訓練などが必要だと思う。

範囲が広いと思うが、防災のための健康ということではなく、一般的な健康ということテーマにしてやっていってはいかがかと思う。取りまとめは何回くらい行う予定なのか。

《事務局》

基本的には、市役所で取り組む部分や各所属団体の方で取り組む部分、市民にやってもらう事業など市役所の部分だけでなく色々なことがあると思う。

市の翌年度の予算に反映させるのであれば、秋くらいを目途にある程度の形が見えてくればよい。

皆さんが所属している団体で取り組むことや、市民の皆さんで取り組むものであれば、それほど急ぐ必要はないと思う。

《部会長》

範囲が広いため、絞ってやっていかなければならない。

《事務局》

体の健康でいくのか、精神的な健康でいくのか、また防災・環境部会なので、防災の部分もありますし、環境保全の部分でどの分野でやっていけばよいのかを、ある程度絞っていければと思う。

《部会員》

うちの町内会では、歩こう会がある。歩きながら避難場所をウォーキングしながら、ここはこうなっていると確認している。災害は、いつどこで起こるのか分からない。

ウォーキングしながら避難場所を歩くというのもよいと思う。

《事務局》

町内会の方は、どこが避難場所か分かっているのか。

《部会員》

うちは分かっているが、いつどこで起こるか分からないため、そこと決まっていなくてもどこか歩いているときに近いところでもよいと思う。その時どこにいるか分からないと思うので、こういうところもあるということ、歩きながら健康を兼ねればよいと思う。

また、景色を見ながら心と体も健康になる。

《副部長》

何をするにも健康である。健康でなければ何もできない。

共通のテーマが健康であれば、例えば、市民プール「らくあ」があるが、行政の方で高齢者は割引してもらえらるような措置をとってもらえばよいと思う。プールでも歩くと全然違うと思う。

《部会員》

プールとなると着替えたりするのは大変だと思う。そこだけの目的であればよいが。

《部会員》

具体的には、役所でやってもらううえで予算化する部分も中にはあるだろうが、民間でやるなら、どういうことをやればよいのかという提案の仕方になるのか。

《事務局》

自分たちの所属している団体で取り組めるのであれば取り組んでもよいし、他の団体でもこういうことができるのではと提案して、取り組んでもらうことも可能であると思う。

《部会員》

防災・環境部会の持っているテーマというのは、こじつければ全部関係ある心と体の健康は当然であるが、社会の健康が気になる。社会生活は健康なのかと。やるべき機能ができていて、機能が働いているのか。本来、防災・環境という形で、社会生活のベースになるようなことを健全にやっていく結果、社会全体が活発に動いているのかと。

《事務局》

確かに社会全体が健康であることは大事であると思う。ただ、漠然としてしまうと、なかなか難しいと思うので、ある程度絞っていった方がやりやすいかと思う。

《副部長》

健康には、捉え方が色々あると思うので、ある程度絞った方がよいと思う。

《事務局》

防災系もあるし環境もある。ネイチャーセンターも持っているし、省エネなど色々な範囲があるので、その中のどこらへんがこの部会で取り組むのによいのかを絞っていただき、そこで広げていければよいのかと思う。

先ほどお話のあった、防災の避難場所のウォーキングであれば、防災の話になっていく。

《副部長》

健康であれば何でもできるので、やはり体の健康ということで絞ってみてはいかがか。

《部会員》

基本は、そこであると思う。

《副部長》

いかにして自分の体を健康に保っていくか。ウォーキングもあるし、自分なりに合った健康の維持のしかたがあると思う。

《部長》

私の町内会では、夏休みにラジオ体操をやっているが、少子高齢化で子供を対象にやると年々少なくなっているの、老人クラブを巻き込んでやっており、一週間やるとみんな体調が良い。

健康には非常に良いため、ラジオ体操を全市でやってみるのがよいと思う。

各町内会には公園があるので、夏休みに入ったら1週間から10日間継続してやってみる。ラジオ体操は、正確にやると汗をかく。今までは、夏休みの子供のためにやっていたが、全市的に市の方で取り組んで、町内会に投げかけてやれば取り組みできると思う。

《部会員》

たとえば、防災・環境部会であるのだから、避難ルートを確認しながらウォーキングをやることや、救急救命訓練をやりながら体操をやるなど、そういうのを結び付けて防災環境部会として議論するのではないのか。

《事務局》

ラジオ体操を全体的に広めていくのであれば、どちらかというと言部会のほうになってしまうと思う。

他の部会に提案できる部分の話であれば、部会長副部会長会議の中で提示することはできると思うが、防災とか環境の中で関連するものを議論してもらった方がよい。

全般的な話というよりは、防災や環境の部分でどういうことができるかということをお話ししていただきたい。

《部会員》

そういうことであれば、他の部会では結びつくかもしれないが、整理がつかないと思う。先ほどの避難訓練の話のように、それを前提に考えながら、一般論として考えていった方がよいと思う。

《部会長》

防災に限らず、一般論も含めてもっと広げてやっていく必要がある。防災だけでやると限られてしまう。

《事務局》

その中でやはり、防災や環境がある部分で、部会として取り組んでいるということを出せるように特色があった方がよいと思う。

《部会長》

一般論も含めて、両方あってもよいと思う。防災に限定しないでやってもよいと思う。総体的な中で提案してもよい。

《副部会長》

他の部会でも同じようなことが出ていると思う。あえてこの部会であれば、ウォーキングをしながら、例えば、驚別には浜辺に散策路があるので、今の浜辺がどうなっているのかも見ることができる。

《部会員》

環境という問題も結び付けて、キウシト湿原を見学しながらウォーキングをすることもできる。環境の改善や日々向上の結び付けも出てくると思うし、防災の部分では避難場所を確認することに繋がっていくと気分がよいと思う。

《事務局》

育み部会などには、提案していけると思う。

《部会員》

住んでいる人間の健康増進のためにも良い環境でありたいし、その環境を良くするためにそこに生きている生物なども繁殖してもらえ環境にしてあげないと駄目であり、これは生活環境に繋がっていくと思う。

いただいている事務事業のお話についても、その中で関わることを評価して、話せたらよいなと思っている。

《事務局》

今、市単独でやっている事業の中でも、各種団体や市民の力を入れてアレンジして提案することもできる。

お金はあまりかけられないが、お金がない中で知恵を出して変えられる部分があればよいと思う。

《事務局》

市の事業と併せて、町内会のウォーキングなどは、町内会単位でやっていただくように、市とは別に民間の方でもできる部分もあると思いますし、各種団体の皆さんにも自主的にやってもらいながら色々と盛り上げていくことも可能かと思う。

《副部長》

週1回、らくあのプールで歩くだけでもすごく健康にはよい。

《部長》

水中であれば結構な運動になる。

《部会員》

私の町会は、パークゴルフも卓球もやっている人は週2回、パークゴルフだけ

は週1回やっている人がおり、みんな元気である。

《部会員》

外に出ている人はみんな元気である。ただ家にいる人はどうか。

《事務局》

引きこもりがだんだん増えてくる高齢者では、近所づきあいが希薄化になってきて、一人になってくると閉じこもりが増えてくるので、その方を外に出すというようなことが必要かと思う

その中で、皆さん話したように、ウォーキングは結構やりやすいかと思う。

《部会長》

健康は人のためではなく自分のためにやるものである。そうなれば、一人でやりづらければグループでやる。

《部会員》

外へ引っ張り出す方法が難しい。

《事務局》

他の部会でもあったが、外へ出ていく人は何もしなくても出ていくが、そうでない人をどうやって出すのが難しいとのことであった。

《部会員》

そういう方々を外へ引き出すために防災訓練というような名称で参加してもらい呼びかけをして、積極的に訓練を行うことも一つのアイデアかと思う。

家の中にこもっている人は、たぶん避難場所も分からないと思う。

《部会員》

防災の地図はあるが、いざとなると行ってみないと分からないかもしれない。

《事務局》

防災ではなくても、自然散策でもよいと思う。

《副部会長》

老人クラブではサロンをやっている。そういう人たちを外に引っ張り出してまちの清掃をしたり、防災訓練に引っ張り出したりして、コミュニケーションを

とっている。一回出ると出やすくなる

《部会長》

きっかけ作りが大事。まずは外に出てみて楽しければ次も出てくる。

《事務局》

引っ張った後のコミュニケーションが大事、参加してもらったからよいのではなく、積極的にその方に参加してもらってよかったと思えるように、友達になって、どんどん話をしていかないと駄目だと思う。

《副部会長》

そういうことから始めていかないと難しい。一回きりではなく、何回も誘って次にはこういうことをやろうかと話してみる。

《部会長》

簡単なゲームみたいなものだと、楽しみが出て習慣になる。

《部会員》

防災訓練も東日本大震災以降に自分たちで地図を作り、全戸配布した。ここまでできたら津波は大丈夫ということで、それを持ち寄って歩いている。

市が設定した40メートルは、ここまで行ったら20メートルと分かるように目印をつけている。また、非常食の試食会をやったりしているが、やはり来る方は決まっていて、新しい方は来ていない。

避難場所を確認するための山登りや、救急救命や消防訓練、避難訓練活動など毎年4つほどやっているが、4つとも同じ顔ぶれの人 coming いる状況である。

《副部会長》

お金をかけないで健康になるということであれば限られてくる。

《部会員》

防災環境の観点からイメージするのは、熊本地震での被災地での健康が悪化している。

レクリエーションを兼ねて避難訓練するのもいいけれど、さらに一步踏み込んで、避難所に行ったらどういう生活ができるのかが分からないであろう。避難所には行きたくないために、家にいてしまう。また、避難所まで行ったら、ここにはどういうものがあって、食べ物があって布団を持っていかなくても大丈夫

というように、そういうところまで見ることができればいいのかと思う。

《部会員》

地震津波とかで、実際に避難所を開放しても、避難所に行くという不安からなかなか行きづらいのかなと思う。一回行って見て見ることにより、最低限の生活ができるのだと分かれば、行きやすくなるのかと。ただ、連れ出すための何かを探さなければならない。

《部会員》

避難場所は、皆さんが収容できる場所はあるのか。市民会館とかはあると思うが、そんなに人は入らない。

《副部長》

災害の種類にもよる。例えば東日本大震災のように津波となれば、鷺別公民館は駄目である。だから、市が作ったマップとは別に鷺別連町で作ったマップに沿って高台に逃げることをしている。

《部会員》

高いところには逃げるが、今のところ、その後どこに行くかは全然指示はない。

《部会員》

その先が見えてくればいい。

《部会員》

やはりそういうことも市できちんとした方が良く。ただ高台に行くだけになってしまったり、津波が来ない時は、普通のところに行けると思うが、あふれかえってしまう。

《部会員》

鷺別小学校は、校舎を高くしたと思うが、どのくらいあるのか。

《副部長》

4階である。屋上が避難場所である。10メートル以上はあり、エレベーターも備えており、一時的な避難場所にはなる。備蓄もすることとなる。

災害時には、高齢者はそこを利用するかもしれないが、元気な人たちは鷺別連町で取り決めた避難場所に避難する。

《部会員》

優和園は2次避難場所としては使えるが、せいぜい詰め込んでも150名位だと思ふ。

《事務局》

環境や自然の関係では、ネイチャーセンターは災害の時は、備蓄はしているのか。

《部会員》

避難所に指定されている。実際に、東日本大震災の時は何名か避難されている方がいた。

《部会員》

言葉ではわかるが一番難しいと思うのが自助・共助・公助である。どう整備してどう機能させるのかをシステム化する必要があると思ふ。

自分のところで整備した避難ルートや避難場所をしているが、以前に避難誘導看板をつけることになり、設置する場所を見せてもらったが、町内会で決めた避難ルートと全然関係ないところになっていたので加味してくれと話した。勝手にやっているから知らないということではなく、リンクさせないと無駄になる。自助・共助・公助の良いモデルパターンはないかなと思っている。

《部会員》

一時避難場所としての広場があるが、そこを訓練しながら見に行つて、巡回して確認してとなると結構な運動になる。

《副部長》

心配なのは地震や停電であり、町内会では会館を開放し、そこへ行つて知らない方とコミュニケーションも取れるし、先ほど言っていた共助という形になっていると思ふ。

《事務局》

大体ある程度の方向性は見えてきたかと思ふ。防災の中で絡めて避難場所へのウォーキングや実際に2次避難所の中で生活したらどうなるのかなど。避難所で避難した市民は、実際には少ないと思ふ。

《部会員》

防災キャンプではないが、実際に火を起こしたり、テントを張ってみたり、ホールで居住空間を作ってみたり、自然の方からも防災の関連が出来たらいいと思っている。

《事務局》

ある程度の方向性は出たが、次に向けて確認したいことがあればファックスで出してもらえれば次回に説明ができるかと思う。

みなさんで次回に向けて必要なものがあれば用意したいと思うがいかがか。

《部会長》

できれば各部会出ていると思うので、案件などの情報を提供してほしい。

《副部会長》

この資料を健康に結びつけた疑問があればということか。

《事務局》

あればということでは繋がらないのであれば、特になくても構わない。第2章の中に入っている事業を入れており、これは市の事業なので、この中で中身を変えることができそうなものがあれば、次回事業の内容について説明できればと思っている。これに関わらず避難所の部分など必要な資料があれば提供したいと思っている。

【次回の日程】

平成28年6月20日（月）18時00分から